

Vol. 112

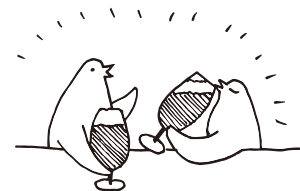
CONTENTS

- 【コラム】 WCCE は 2021 年から 2022 年に…齋藤 俊則
 【解説】 パーチャル情報入試シンポジウム 2020 春は、熱かった!…辰己 丈夫
 【解説】 情報の専門家と ICT 苦手教員の間^{ギャップ}に潜む間隙…三田地 真実



COLUMN

WCCE は 2021 年から 2022 年に



読者のみなさま、あけましておめでとうございます。

年明け早々のご連絡となりますが、タイトルの通りに、国際会議 WCCE (World Conference on Computers in Education) は、新型コロナウイルスの影響により当初予定された 2021 年から 2022 年に開催が延期となりました。開催日は 8 月 20 日のプレイベント (広島大学東千田キャンパス) および 8 月 21 日より 24 日の本会議 (広島国際会議場) を予定しています。「コンピュータ」と「教育」とがかかわる研究領域に少しでも関心のある方はぜひ投稿および参加をご検討ください。よろしく申し上げます。

さて、新年によせて、国際会議のこれからについて若干の考えを記したいと思います。ご存知の通り、昨年のコロナ禍以降、学術発表の場としての国際会議ではオンライン参加のウエイトが格段に増えています。とかく移動滞在に要する負担が大きく、開催地によっては利便性や安全性の面での心配などが先に立ち、研究費獲得が難しくかつ国際情勢の不安定さが目立つ昨今では、国際会議参加のハードルは年々高くなっているようです。ゆえにオンライン化の流れはある程度必然性があると思われま。

このような背景から、これからの国際会議は純粋に学術発表の場としての機能を追求する方向と、むしろ「人と人をつなぐ場」としての役割を重視する方向との間で大きく二分されるのではないかと予感しております。前者は積極的にオンライン化を追求し、後者は発表に付随するディスカッションや現地でのエクスカージョンなどを充実させる方向で発展するのではないのでしょうか。

WCCE 2022 は多くの発表を歓迎すべくオンライン参加を準備しつつも広島現地開催を堅持します。現地開催を重視する背景には主催団体である IFIP^{☆1} TC3^{☆2} メンバの、何よりも「人と人をつなぐ場」としての WCCE に対する一方ならぬ思いがあります。1970 年の第 1 回アムステルダム大会以来、WCCE はコンピュータと教育の未来を創る志を持った人たちが世界中から集う対話と創造の場であり続けてきました。

ダブリン市内で開催された前回の WCCE 2017 では市内の老舗パブ巡りが行われました。夕暮れ時の爽やかな風と各国の参加者たちと共に飲んだギネスの爽やかな苦味は、私にとって、遠くへ足を運んだことの何よりのご褒美でした。2022 年の広島でも、世界中から集まるたくさんの参加者たちに、この場に足を運んでよかったとただただけるよう最善を尽くしたいと思います。

☆1 International Federation for Information Processing (情報処理国際連合)

☆2 Technical Committee 3 (技術委員会 3 : 教育に関する技術委員会)



齋藤俊則 (星槎大学) (正会員) t-saito@gred.seisa.ac.jp

星槎大学大学院教育学研究科准教授。本会誌編集委員会専門委員会 (教育分野 / EWG) 幹事。本会 IFIP 委員会 TC3 (教育) 代表。WCCE 2022 開催準備委員会委員長として同会議の広島開催の準備に取り組む。

LOGOTYPE DESIGN...Megumi Nakata, ILLUSTRATION&PAGE LAYOUT DESIGN...Miyu Kuno